

国語③

【児童・生徒質問】

(56)国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれましたか

(57)国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれましたか

		よくある	たまにある
(56)	小	26.1%	50.7%
	中	29.6%	47.7%
(57)	小	28.9%	45.2%
	中	29.6%	45.1%

「たまにある」を「よくある」に引き上げたい！



導入から終末まで、**適宜、評価・助言すること**で、『**学びを自覚**』できるようにしましょう！

ここを大切に！

☑「単元で付けたい力」に即した評価や助言をする。

☑学習状況を自覚できるようにし、次の学びに向かう意欲を育む。

☑単元において、振り返りの位置付け方や方法などを精選する。



実践例 小学校5年「『子ども未来科』で何をする」

単元を通して

単元で付けたい力[思・判・表 A-イ]

○学習計画を立てる。

■学習活動だけでなく、「どんな力を付けたいのか」を子どもたちと共有して計画を立てる。

○テーマを全体で設定し、提案する内容を決める。

○提案の根拠となる情報を集める。

○スピーチの構成を考える。**【重点】**
○スピーチメモを基に練習する。

■単元で付けたい力に立ち寄り、構成を考えたり、練習したりする際のポイントとなるようにする。
■「単元で付けたい力」に即して個のよさを価値付け、全体に共有し広げる。

○スピーチをする。
○感想を伝え合う。
○学習を振り返る。

単位時間の中で(第6時では)

導入

○単元で付けたい力を確認する。

■これまでの学習を想起させながら、スピーチを聞くときのポイント(話の構成、話し方)を、具体的に提示する。

展開

○スピーチをして感想を伝え合う。

「今のスピーチについて、スピーチの構成はどうでしたか？」

「分かりやすいと感じたのは、どんな構成になっているからだと思いますか？」

■話の構成、話し方の両面から評価しているかを確認する。

■発表の様子を録画して、ポイントに沿って振り返るなど、ICT機器を活用して学びの実感をもたせる。

終末

○単元の学びを振り返る。

■今後の生活や他の学習への広がりをもてるようにする。

■言語化することを大切に、「話す」書く「話してから書く」など、実態に応じて方法や時間、量を工夫する。

「学びを自覚」できるための手立て

